

関の「顔」が 勢ぞろい



白装束に身を包んだ刀匠、振り袖姿のせき親善大使、卯年に「関＊はもみん」…。刀都・関に新年を告げる「古式日本刀鍛錬打ち初め式」を前に、刀匠ゆかりの春日神社で、今年の盛業と安全を願う神事に

関係者が集合しました。関市のPRになくてはならない3組です。今年も関市のよいところを全国に向けて発信し、広く知っていただけるよう活躍をよろしく願います。

あんな事、こんな事



地元畜産物で料理講習

飛騨牛や奥美濃古地鶏、美濃ヘルシーポークなどを使った料理作りの講習会が開かれました。中濃地域畜産振興会が県銘柄畜産物のおいしさなどについて料理講習を通じて積極的にPRすることにより、その消費を拡大・促進する目的で開催されたものです。出来上がった料理を全員で試食すると「自宅でも試したい」との声が上がりました。安全で安心、健康な地元畜産物をたくさん使って、地産地消を目指します。

園児、もちつきに挑戦

旭ヶ丘幼稚園で、新年恒例の「もちつき大会」があり、園児が威勢よく杵を振っていました。同園では、つきたてのお餅をいただく喜びと食に対する感謝の気持ちを育てようと毎年開催。大人の人に手を添えてもらいながら順番に杵を振り下ろすと、周りで見守っている園児らが「ぺったん、ぺったん」と元気いっぱいの掛け声を響かせていました。つきたてをきなこ餅、あんこ餅にしてみんなで頼むと、園児の笑顔が広がりました。





保育園で南京玉すだれの妙技

市内の幼稚園や老人ホームなどで20年以上にわたって「南京玉すだれ」を披露する活動を続けている安田和代さん(貸上町)の芸を富野保育園児が観賞しました。安田さんは「しだれ柳」や「日米国旗」など変幻自在の技を次々と見せていき、園児たちを驚かせていました。園児たちはすだれに実際に触れて、一直線に伸ばすと、嬉しそうに高々と掲げていました。

わが地域の相談役

多年にわたり人権擁護委員を務め、昨年いっぱい退任された長尾ふき子さん(富之保)と平田公二さん(小瀬)の2人へ法務大臣感謝状が贈られました。任期中は小中学校に足を運び、いじめ問題の紙芝居の上演をされるなど、市民の人権の擁護と人権思想の普及活動に多大な貢献をされ、その功績がたたえられました。その経験を生かし相談および啓発活動にも尽力され、市民の福祉向上にも貢献されました。



土佐の国からはるばる取材

中濃厚生病院は、化石燃料に代わるバイオマスを活用した冷暖房システム「木質ペレット焚き吸収式冷温水機」を導入し稼働を始めました。これに、木質バイオマスの利用が進んでいる高知県(梶原町など)から、高知放送局が取材に来関。木材を固形燃料化して冷暖房につなげる取り組みが全国にも広がっています。併せて市内の街並みも取材され、遠い地で「関市」を知っていただく機会となりました。

見事命中！楽しく雪合戦

1月16日から17日にかけて、市内の平野部でも激しい降雪に見舞われました。西部保育園の園児たちは、本格的な積雪に「雪だ～、冷た～い」と大喜び。全員で園庭に出て、雪だるまやかまくらを作って楽しみました。さらに、手でぎゅっと握って丸めた雪を投げ合って雪合戦もしました。元気いっぱい歓声を上げながら、笑顔で駆け回っていました。



こぼれ話



先日、取材で関市消防団の出初式に行きました。式典では「住宅などの火災は依然として後を絶たず、台風、ゲリラ豪雨による風水害など災害が複雑多様化の傾向にあり、消防団の皆さんには地域防災の要として、大きな期待が寄せられています。団員の減少傾向が続いている状況ですが、不測の事態に備え、皆さんとともに、一丸となって精一杯活動していきたい」という大変心強い消防団長の訓示があり、消防団の皆さんが、関市の安全・安心を守って

くれているのだと改めて感じました。

式典のあと、稲口・津保川河畔では85台の車両からの一斉放水と、岐阜県防災ヘリコプターの「若鮎」の祝賀飛行があり、私が消防団に所属していた時にはできなかった放水演習の全景を見ることができました。

皆さんも消防団へ入団し「安全・安心なまちづくり」に一役買ってみませんか。詳しくは、関市役所危機管理課まで(☎ 23-7736)。関市消防団のホームページ(<http://www.city.seki.gifu.jp/shobo/>)もありますので、ぜひご覧ください。